

二〇二五年八月一日

根上りの杉屹立す道涼し
天仰ぐ顔に両手に喜雨浴びる

なつき

ほたる

二〇二五年七月三十一日

レガッタの水面を削る櫂捌き

澄子

二〇二五年七月三〇日

全山がスピーカーめく蝉時雨
深き谷覆ひつくして葛嵐

山椒

むべ

蝉時雨びたりと止みし亭午かな
と見る間に干し物乾く猛暑かな

えいいち

こすもす

二〇二五年七月二十九日

膝つけば焼けつく墓碑や炎天下
つばくらめよちよち歩きの子を掠め

康子

なつき

二〇二五年七月二十八日

連打また連打佳境の遠花火
朝日差す稲の穂先に万の露

やよい

千鶴

二〇二五年七月二十七日

広げたる夜干の梅に添ひ寝せむ
断崖の狭間の瀬に舟あそび

むべ

山椒

二〇二五年七月二十六日

数珠繰りつくぐもる読経地藏盆
豊の秋山田錦の幟たつ
山頭火句碑に縋りし蝉の殻
聞き役に徹して団扇風送る

もとこ

こすもす

なつき

康子

毎日句会みのる選・二〇二五年八月三日